週刊文教ニュース　令和8年11月16日（月曜日）第2931号　㈱文教ニュース社より

日本工学アカデミー
政治家と科学者の対話の会

公益社団法人日本工学アカデミー（ＥＡＪ、安西祐一郎会長）は11月5日、第14回「政治家と科学者の対話の会」を参議院議員会館において開催した。

冒頭、伊佐進一衆議院議員（公明党）より、定着化した同会への期待が述べられた後、ＥＡＪプロジェクト「社会、産業、人々の生活の変容を支える電力システムの在り方」の荻本和彦リーダー（東京大学生産技術研究所特任教授）が「新たなニーズに応える電力・エネルギー・社会システムへの提言－変革のポテンシャルを考える－」と題し講演。電力・エネルギーシステムの変革は個別技術の開発・導入だけでは実現できず、定量的な解析・評価に基づく、統合設計、継続的な意思決定、人材・知識基盤の強化が不可欠であるとしつつ、6つの政策提言を紹介した。

4会派10名の国会議員と会場との間での提言内容を深掘りするやりとりの後、大野敬太郎衆議院議員（自民党）が、このような形で入る情報から政策ができる過程の重要さを指摘しつつ閉会した。



開会挨拶をする伊佐衆院議員と衆参両議員